



○南越前町／七福神祭り

時を超え、幸せ運ぶ七福神

厄を払い、収穫に感謝する。
町中に福をもたらし、めでたき祭り。



七福神の姿を見て思わず泣き出す子どももいれば、イタズラを仕掛けるヤンチャ坊主もいたとか（昭和30年代）



法要の後、七福神、神輿、稚児、参拝者らが行列を作り、山上の七面堂に参拝する

歴

史ある厳かな山門の前に、色鮮やかな衣裳をまとった七福神が並ぶ。毎年9月の敬老の日に催される『七福神祭り』の光景だが、実は、個性豊かな七福神が一堂に会する祭りは全国的にも極めて珍しい。

『七福神祭り』が行われる妙泰寺は、700年以上の歴史を誇る古刹であり、七難を避け、七福を授けるといわれる七面大明神が奉られている。第44代住職の三井龍明さんは、祭りの由来をこう語る。「天明年間（1781〜189年）、凶作や疫病に襲われた村を救うために、住職と村人が七福神に扮し、七難即滅・七福即生を祈願したことに始まったものです」。

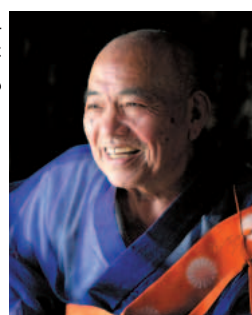
時が経つうち、祭りには秋の収穫祭の意味も加わって、前夜に盆踊りが行われるようになったとか。当日は、つゆ払いの先導で七福神が登場し、本堂で奉納踊りを舞った後、山上の七面堂に参詣して法要を行う。

「昔も今も、七福神に扮するのは地元の若い衆です」と住職。そんな若い衆が中心となった祭りを盛り上げようという動きは、伝統となつて受け継がれている。

今年の祭りについて打ち合わせをする保存会のメンバー。祭りを紹介するパンフレットなども、会員たちが作成した



七福神祭りを長年見守ってきた三井さんは84歳。今年も現役の住職として、法要に参加する



奉納踊りの笛を担当するのは、地元の小学生たち。笛の練習は、夏休みを通して行われる

約40年前には盆踊りの曲を創作し、10年ほど前からは七福神の扮装で介護施設を慰問するなど、盛んな活動が行われている。祭りの保存と発展を目指し、平成16年に設立された「七福神保存会」会長の中村節夫さんは「七福神はおめでたい縁起もの。町の人にもつと福神を身近に感じてもらいたいですし、祭りを通して、町を元気づけたいですね」。

ユーモラスな姿で、見る者のほえみをさそう妙泰寺の七福神。これからも町の人たちに笑顔と元氣をもたらし続けることだろう。



七面堂に向かう、七福神たち。
大きな面をかぶって96段ある急な階段を上るのは大変



地元の介護施設を訪問。子供の頃から親しんだ七福神の姿に、お年寄りたちの顔にも自然と笑みが浮かぶ

information

日蓮宗大谷山妙泰寺

『七福神祭り』（明神会）

平成18年9月18日（月・祝）

妙泰寺七福神保存会

南条郡南越前町西大道10-8（妙泰寺内）

TEL.0778-47-2075